

第4回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年8月21日（金） 午後1時30分～午後4時00分

場 所：市役所西別館3階会議室

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、勢古委員、向井委員、上路委員、片山委員（順不同）

【欠席委員】

丹羽委員

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、篠原主事
図書館：道前係長

<会議次第1. 前回打合せ内容の確認>

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

<会議次第2. 配置・平面計画について>

設計者より、資料2-1、資料2-2に基づき配置・平面計画について説明

【設計者】

全体面積について、3棟案が7900㎡であるのに対し、2棟案は共用空間が増加したため8250㎡となっている。

3棟案は熊野学棟・図書館棟を準耐火構造にできるのに対し、2棟案は耐火構造にする必要がある。準耐火構造は経済的な木質化が可能である。

駐車場について、2棟案は東側敷地が幅の狭い敷地形状であるため効率的な駐車場が作れず4層5段6400㎡となる。3棟案は効率よく駐車場がとれるため1層2段2400㎡となる。

エレベーターについては、2棟案は3棟案より1台削減できるが、1フロアの面積が広いため管理用のエレベーターを設ける可能性がある。

歴史性については、市民会館の敷地は広小路や大手門があったという歴史的に重要な場

所であり、歴史的土地利用に相応しい計画がよいと考える。そのため、駐車場を設置するよりも熊野学棟を建てる方がよいと考える。

正面性については、アプローチから熊野学棟が見える方が正面性が高く、3 棟案の方が優勢であると考ええる。

周辺住居の住環境に関して、2 棟案にすると西側にホールのフライタワーが寄ってくるため周辺住居に圧迫感を与える。また、東側敷地に駐車場を配置すると、景観・圧迫感だけでなく排気ガスの問題等もあるため好ましくないと考ええる。

3 棟案では各施設へのアプローチが遠いという意見があったが、2 棟案の場合でも、駐車場の最上階に車を止めて下まで降りてきてアプローチすることを考えれば所要時間は変わらないか短くなると言える。

車両動線に関して 3 棟案では交通誘導員を使うなどの措置を施せば動線の選択をできる案となっているが、2 棟案では信号機のない場所からのアプローチしかない。ただし、前回の委員会で交通事情を伺ったところ下本町谷王子町線からのアプローチが良いとの話であったため、2・3 棟案の優劣はないものとした。

【委員】

2 棟案に反対である。4 階建ての立体駐車場の周辺住宅へ与える影響が大きいと考えられること、新宮城跡への景観が損なわれると感じられることが理由として挙げられる。（※欠席委員より（事務局から報告））

【委員】

耐火構造・準耐火構造の違いを教えて欲しい。

【設計者】

火事の際の燃えにくさによって仕様がかわっている。規模や防火地域の指定地域によっては耐火・準耐火構造が義務付けられている。

【委員】

2 棟案において、熊野学センターを西側に寄せて、駐車場を市道の上空を跨いで 3 層程度で計画することはできないのか。

【設計者】

市道を跨いで駐車場を作ることは法的に不可能である。

【委員】

駐車場を 4 層 5 段とした場合、現在の市民会館と比べると高さはどちらが高いか。

【委員】

今の市民会館より低くなる。圧迫感という点では現在よりも軽減するが、排気ガスの問題等も考慮しなくてはならない。

【委員】

概ね 3 棟案が良さそうであるが、市民会館を使えない期間が長い。折衷案が欲しい。

【委員】

3 棟案は観光等の外に向けた方に重きを置いていて、2 棟案は市民の使い勝手に重きを置いているように思う。熊野学に市民が触れやすいことが大切である。図書館と熊野学が離れていると、熊野学棟へわざわざ足を運ぶ人はいないのではないか。図書館と熊野学が一体になっていると市民と観光客が触れる機会が増えるのではないか。

【設計者】

日常性だけでなく長いスパンで見たときに、敷地のもつ歴史性を考慮して 3 棟案の方が相応しいのではないかと提案している。

【委員】

貴重な収蔵物を収蔵するのであれば耐火構造の中に入れたほうが良いのではないか。

【設計者】

図書館 1 階の閉架書庫や熊野学棟の一般収蔵庫は耐火構造にする予定である。部分耐火を行うことで安全性には十分に配慮した設計とする。

【委員】

プロポーザル案では熊野ひろばがメインであったのに対して現在の案では熊野学センターが顔になってしまっているのが気がかりである。また、市道の迂回路をつくる方法はないのか。

【事務局】

市道の下に下水道があることや迂回路の設置が困難なことにより、迂回路を設けることはできない。

【委員】

3 棟案に賛成である。ただ、プロポーザル案の図書館と熊野学センターが上下の関係のほうが良かった。プロポール案のように駐車場から図書館に直接アプローチできるようにすることは可能か。

【設計者】

可能である。また、プロポーザル案では熊野学アーカイブと熊野学棟が道路を挟んだ関係にあったが、今回の提案では上下でつながっている。このように図書館・熊野学棟と両方から近い位置に熊野学アーカイブを配置した計画となっている。

【委員】

車両動線や人の動線の問題が今後うまく解消されれば、建設コスト・景観を踏まえると 3 棟案が妥当であると考える。

【委員】

コストや将来の使い勝手は重要である。図書館と熊野学センターは別にした方が使い勝手が良いような印象を受けた。

【委員】

48 億円という限られた予算を考慮すると、おのずと 3 棟案となる。2 棟案の場合の景観

も気がかりである。熊野ひろばの回遊性は薄れた印象を受けた。

【設計者】

テラスを介した回遊性・動線は確保している。川を見下ろすことができる動線やデッキも確保している。

【委員】

駐車場を含めた予算が 48 億円であるため、2 棟案では 52 億円になる可能性があり、困難である。また、車両動線も 2 棟案の 1 箇所では厳しいのではないかな。

【委員長】

安全面から考えて、ホールにスプリンクラーは設置不要かな。

【設計者】

設置していないホールは他にも多数事例がある。法的には設置の義務はないが、安全性を考慮して設置する場合、億単位の増額となる。

【設計者】

設計者として、コスト、場所が持つ背景、3 つの複合施設としてのあり方等を総合的に考えて提案を行っている。

【委員】

駐車場の動線に関して、西側の道路にも出られるようになっているのか。

【設計者】

西側からも出られる計画となっており、これから計画を進めていく上で選択可能である。

【委員】

ランニングコストについて、2 棟案・3 棟案を比較するとどうか教えて欲しい。

【設計者】

ソフト面に関するランニングコストは管理・運営側の話となるため言及は避けるが、ハード面では、2 棟案では共用部分を設けたため、その部分や近接する場所の照明や空調によるコストの違いがあるといえる。

【委員】

市民会館の閉館期間を短縮できないかな。

【事務局】

今回の敷地は埋蔵文化財の調査を行わなくてはならない。スムーズな工事工程で行うためには早期に市民会館を解体して早めに調査を行う必要がある。また、建物自体の老朽化や法改正により特定天井の基準を満たしていないこともあり、安全性を考慮して解体を行わなくても使用できない可能性が出てくるため、当初のスケジュールのままとする。市民の安全性を第一に考えて延長はしない。

委員会として 3 棟案とするか、2 棟案とするか採択が行われ、3 棟案多数で 3 棟案に決定した
--

＜会議次第 3. 市民ワークショップについて＞

設計者より、資料 3－1、資料 3－2 に基づき市民ワークショップについて説明

【設計者】

図書館のようにイメージしやすい施設だと議論もしやすいが、熊野学センターは他に例がないため捉えにくかったように感じた。熊野学センターは人と街と歴史をつなぐためにつくると捉えており、それぞれをどのようにつなげていくかが今後の論点となる。

【設計者】

第 3 回のワークショップの内容は図書館と熊野学についてとしている。

プログラムの中ではステップ 4 がメインとなっている。備品や配置の組み合わせ等細部に渡る意見を出してもらう予定である。

【設計者】

全体スケジュールについて当初 5 回を想定していたが、6 回に変更予定である。

【委員長】

各棟の詳細な内容に関しては今後検討委員会においても議論していく。

【委員】

貴重な資料を保存する機関として、必ずではないが文化庁が定めた基準を参考に設計を行って欲しい。具体的には、収蔵庫は展示室の半分の面積を確保することや搬入などのものの流れを考慮した作りにすることなどが挙げられる。

【委員】

熊野学ひろばはどのような展示をするのか。

【設計者】

収蔵展示に関しては、プロポーザル案では小ホールやホワイエを展示空間として転用する計画となっていたが、常設で展示する空間が必要であるとのことを受け、専有の展示空間を設けた。熊野ひろばで行うコンテンツは今後議論を深めていけばと考えるが、様々な場合に対応できるように自由度の高い「ひろば」として現在計画している。

＜会議次第 4. その他＞

【事務局】

次の第 5 回基本設計等検討委員会は 9/7（月）13：30 から西別館会議室にて行う。

＜閉会＞